

WESTUNION

第329号

2018年9月7日

JR西労組よなご

西日本旅客鉄道労働組合
米子地方本部
発行責任者 廣澤 寿志
編集責任者 上倉 健司

米子地方本部第28回定期大会開催！！

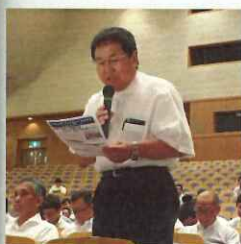


右 (鳥取支部・平田 智康)
左 (石見支部・藤田 一徳)

8月25日(土) 米子市文化ホール(メインホール)にて、代議員56名を始めとする総勢170名参加のもと、第28回定期大会を開催した。大会は10時30分に始まり、福留副委員長による開会挨拶の後、議長団に平田智康(鳥取支部/倉吉工務支部)、藤田一徳(石見支部/浜田駅)の両氏を選出した後、廣澤執行委員長が挨拶を行った。冒頭7月の西日本豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りすると共に、被災された組合員とその家族にお見舞い申し上げ、懸命に復旧作業やお客様の安全確保やご案内にあたっていただいている組合員の皆様に敬意と感謝を述べた。また、「職場からの安全確立」「労働力不足への対応と働き方改革」「組織の充実・強化・拡大」「地域活性化の取り組み」「政策活動」の5点を本大会に付託された重点課題として提起した。来賓は、両県連合会長をはじめ20名出席頂きました。また、中央本部よりは上村書記長、禅野賃金対策部長、森組織・業務部次長参加のもと、代表して上村書記長より挨拶を頂いた。午後からは、執行部より遠藤副委員長が経過報告、大川書記長が運動方針案を提起した後、代議員11名より活発な質疑を頂いた。執行部を代表し大川書記長が総括答弁を行い、向こう1年間の運動方針を満場一致で決定するとともに、鶴石地方本部青年女性委員長が大会宣言案を提起し、会場全体で確認を行った。閉会の挨拶を坂田副委員長が行い、最後に廣澤委員長の団結ガンバローで締めくくった。

向こう1年間の運動方針決まる！！

第28回定期大会質疑内容



- 代議員 No.14 野口 紀幸 (米子車掌区)
 - 今春より導入された新型車発機では、不便な点が多数あり、機能を改修するよう求める。
 - 車載型 IC の導入について、境線の IC カード化等の情報があれば教えていただきたい。
 - 運転士科に合格しても1年待ちの状態が常態化している。モチベーション維持のためにも改善を求める。
 - やくも号の9両編成は、6、7号車の間が非貫通となる。盆・正月以外での9両編成の運行はやめられたい。
 - ワンマン化拡大に伴い、要員が減少したが、今後の車掌の展望について交渉の経過及び見解を教えてください。
 - シニア社員は現職と同じ業務だが、賃金では格差がありモチベーションの低下となる。制度の改善を求める。

代議員 No.49 竹下 純弘 (浜田列車)

- 育児に伴う短日数制度について、現場において制度に精通している現場長クラスへの教育を会社がしっかりと行うことを求める。また、制度を利用したら扶養手当が減額となるので、改善するよう交渉されたい。
- ダイヤ改正の団体交渉は会社から提案を受け、提案内容を見て要求している。提案を受ける前に要求すべき。
- 三江線の廃止で、120系の予備車が2Bから1Bに運用に苦慮しているため、予備車を2Bとされたい。
- 120系において乗務員への防犯対策が不十分であるため、アクリル板での仕切り板設置をお願いしたい。



代議員 No.36 手島 雄太 (米子支部)

- 新幹線殺傷事件により、防犯対策等の周知・警備等を行っているが、鉄道輸送の抜本的なセキュリティの改善・対策について大きな枠組みでの労使協議を要請する。
- 労災事故がグループや協力会社において増加しているが、グループに対してどうアプローチを行うのか。
- 労働人口が減少し、業務の効率的な見直しをしているが、技術継承や業務の偏りが隠れないように協議されたい。

代議員 No.44 清水 浩二 (出雲支部)

- 今年度に入り、死亡労災が下関で発生した。安全対策をソフト面だけでなく、ハード対策の早期整備を要望する。
- 木次線で冬季期間になれば長期間運休が発生する。除雪作業等の見直しを図り、列車の運行を確保できる体制を。



代議員 No.53 山根 祥之 (石見支部)

- 働き方アンケートで、各種発表会等は負担になっているという結果がでた。地本として会社に提言していくべき。
- 浜田列車支部検修へ配属となる時は、信号業務の資格を取得後に異動を実施されたい。
- 米子支社採用の新入社員の配属先を、最初はアーバンエリア運用に戻す検討をしていただきたい。
- シニア社員の旅費については実費支給で、社員と支給額に差が生じている。社員同様に定額支給とされたい。